2017年9月1日

岡山県感染症週報 2017年 第34週（8月21日～8月27日）

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2017年　第34週（8/21～8/27）の感染症発生動向（届出数）

■全数把握感染症の発生状況

第32週　3類感染症　腸管出血性大腸菌感染症　1名（O157：小学生　男）
　　　　5類感染症　アメーバ赤痢　1名（70代　女）
　　　　　　　　　劇症型溶血性レンサ球菌感染症　1名（50代　女）
　　　　　　　　　侵襲性肺炎球菌感染症　2名（幼児　女　1名、50代　男　1名）
　　　　　　　　　梅毒　1名（40代　男）
第33週　2類感染症　結核　1名（70代　女）
　　　　3類感染症　腸管出血性大腸菌感染症　6名（O121：20代　女　1名、
　　　　　　　O157：20代　男　1名・女　1名、60代　女　1名、70代　男　1名、80代　男　1名）
　　　　4類感染症　日本紅斑熱　1名（70代　男）
　　　　5類感染症　ウイルス性肝炎　1名（20代　男）
　　　　　　　　　梅毒　3名（20代　女　1名、30代　男　1名、40代　女　1名）
第34週　2類感染症　結核　1名（70代　男）
　　　　3類感染症　コレラ　1名（70代　女）
　　　　　　　　　腸管出血性大腸菌感染症　12名（O26：幼児　男　1名、O157：幼児　男　1名、
　　　　　　　　　　小学生　男　1名・女　1名、10代　男　1名、20代　男　1名・女　3名、
　　　　　　　　　　30代　男　1名、70代　男　1名・女　1名）
　　　　4類感染症　デング熱　1名（40代　男）
　　　　5類感染症　アメーバ赤痢　1名（40代　男）

■定点把握感染症の発生状況

患者報告医療機関数：インフルエンザ定点84、小児科定点54、眼科定点12、STD定点17、基幹定点5

〇RSウイルス感染症は、県全体で32名（定点あたり0.72→0.59人）の報告があり、前週より減少しました。
〇手足口病は、県全体で129名（定点あたり4.02→2.39人）の報告があり、前週より減少しました。

【第35週　速報】

〇腸管出血性大腸菌感染症　8名（O157：小学生　男　1名、20代　男　1名・女　3名、30代　女　1名、60代　女　1名、70代　男　1名）の発生がありました。（8月28日～30日）

---

1. 腸管出血性大腸菌感染症は、第32週に1名、第33週に6名、第34週に12名の報告があり、2017年第34週まで（～8/27）の累計報告数は42名となりました。さらに第35週（8/28～8/30）にも、8名が報告されています。焼肉店における腸管出血性大腸菌O157による集団食中毒事例が報告されていることもあり、患者が増加しています。8月31日現在、この集団食中毒による患者は8名確認されています。県内の発生状況など、詳しくは、「今週の注目感染症」及び岡山県感染症情報センターホームページ『腸管出血性大腸菌感染症注意報　発令中！』をご覧ください。
2. デング熱は、1名の報告がありました。輸入症例（感染推定地域：ベトナム）であり、国内で感染したものではありません。この感染症は、デングウイルスを保有する蚊に刺されることによって起こる感染症です。感染を防ぐためには、蚊に刺されないことが重要です。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『デング熱について』をご覧ください。
3. ＲＳウイルス感染症は、県全体で32名（定点あたり0.72→0.59人）の報告があり、前週より減少しました。患者数は減少したものの、過去10年間の同時期と比較して最も多くなっています。地域別では備北地域（1.75人）、美作地域（1.33人）、岡山市（0.86人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、備前地域と真庭地域を除く全ての地域で患者が報告されています。この感染症は、大人は軽い風邪程度の症状で軽快しますが、乳児が感染すると重症化する恐れがあります。例年、秋から冬にかけて多くの患者が報告されるため、今後の県内の発生状況に注意するとともに、手洗い、うがいを行うなど、感染予防に努めましょう。
4. 手足口病は、県全体で129名（定点あたり4.02→2.39人）の報告があり、前週より減少しました。流行のピークは過ぎ、患者数は減少傾向にありますが、依然として多くの患者が報告されています。地域別では、倉敷市（3.73人）、岡山市（3.64人）、備中地域（3.14人）の順で定点あたり報告数が多くなっており、真庭地域を除く全ての地域で患者が報告されています。全国の第33週の発生状況は、定点あたり5.54人であり、前週より減少しました。都道府県別では、長野県（11.33人）、新潟県（10.70人）、山形県（9.68人）の順で、定点あたり報告数が多くなっており、21都道県で警報レベルを超える流行となっています。ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、患者との濃厚な接触を避け、手洗いや手指の消毒を励行するなど感染予防に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↓	★	RSウイルス感染症	↘	★★
咽頭結膜熱	↘	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↗	★
感染性胃腸炎	→	★★★	水痘	↗	★
手足口病	↘	★	伝染性紅斑	↑	★
突発性発疹	→	★	百日咳	→	
ヘルパンギーナ	↘	★	流行性耳下腺炎	↘	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	↑	★
細菌性髄膜炎	→		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	→		クラミジア肺炎	→	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	→	＊ 感染性胃腸炎（ロタウイルス）については、2013 年第 42 週から報告対象となったため、前週からの推移のみ表示しています。			

【記号の説明】 前週からの推移 ： ↑ ： 大幅な増加　↗ ： 増加　→ ： ほぼ増減なし　↓ ： 大幅な減少　↘ ： 減少

大幅 ： 前週比100％以上の増減　　増加･減少 ： 前週比10～100％未満の増減

発生状況 ： 今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）

空白 ： 発生なし　★ ： わずか　★★ ： 少し　★★★ ： やや多い　★★★★ ： 多い　★★★★★ ： 非常に多い

★ 岡山県内でデング熱（輸入症例）の発生がありました。

蚊が媒介する感染症に注意しましょう！

蚊が媒介する感染症は、ウイルスなどの病原体を保有する蚊に刺されることによって起こる感染症です。世界的に多く発生しており、特に熱帯・亜熱帯地域で広く流行しています。主な感染症には、

デング熱、**ジカウイルス感染症**、**チクングニア熱**、**日本脳炎**、**マラリア**、**ウエストナイル熱**

などがあります。

近年では、中南米、アフリカ、東南アジアなどでジカウイルス感染症が流行しており、妊娠中に感染すると、胎児に小頭症等の先天性障害を来すことがあるため、特に妊婦及び妊娠の可能性のある方はご注意ください。また、性行為により、男性から女性パートナーへ感染した事例が報告されています。流行地域から帰国した男女は、症状の有無にかかわらず、少なくとも 6 ヶ月、パートナーが妊婦の場合は妊娠期間中、性行為の際にコンドームを使用するか性行為を控えることを推奨します。

日本では、海外渡航などの増加により、海外で感染し、帰国後発症する輸入症例が増加しており、2016 年には、海外からの帰国者がデング出血熱を発症し、死亡する事例がありました。また、2014 年には、海外から持ち込まれたと思われるウイルスによるデング熱の国内流行が 69 年ぶりにありました。

デングウイルスやジカウイルスを媒介するヒトスジシマカは、越冬できないため、ウイルスの国内への定着はないと考えられますが、今後も注意が必要です。

【蚊が媒介する感染症の予防策】

日本脳炎はワクチンによる予防接種、マラリアは医師の処方による予防薬の内服が有効ですが、デング熱、ジカウイルス感染症、チクングニア熱、ウエストナイル熱には、ワクチンも予防薬もありません。感染を防ぐためには、媒介する蚊に刺されないこと、蚊の発生を抑えることが重要です。

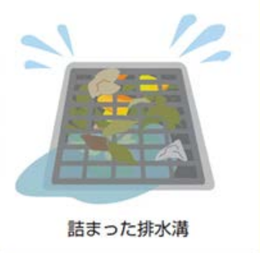
蚊に刺されない

- 長袖、長ズボンを着用するなど、屋外の作業において、肌の露出をなるべく避ける。
- 素足でのサンダル履きを避ける。
- 白など薄い色のシャツやズボンを選ぶ。（蚊は色の濃いものに近づく傾向がある）
- 蚊取り線香などを使って蚊を近づけない。
- 露出する部分には虫除けスプレーなどを使い、蚊を寄せ付けないようにする。

蚊を発生させない

家の周囲の水たまりの除去・清掃をしましょう！
下草を刈るなど、成虫が潜む場所をなくしましょう！

ヒトスジシマカ
（国立感染症研究所）



（厚生労働省）

[蚊媒介感染症（厚生労働省）](#)
[「蚊防除対策ガイドライン」を作成しました（岡山県 保健福祉部 健康推進課）](#)

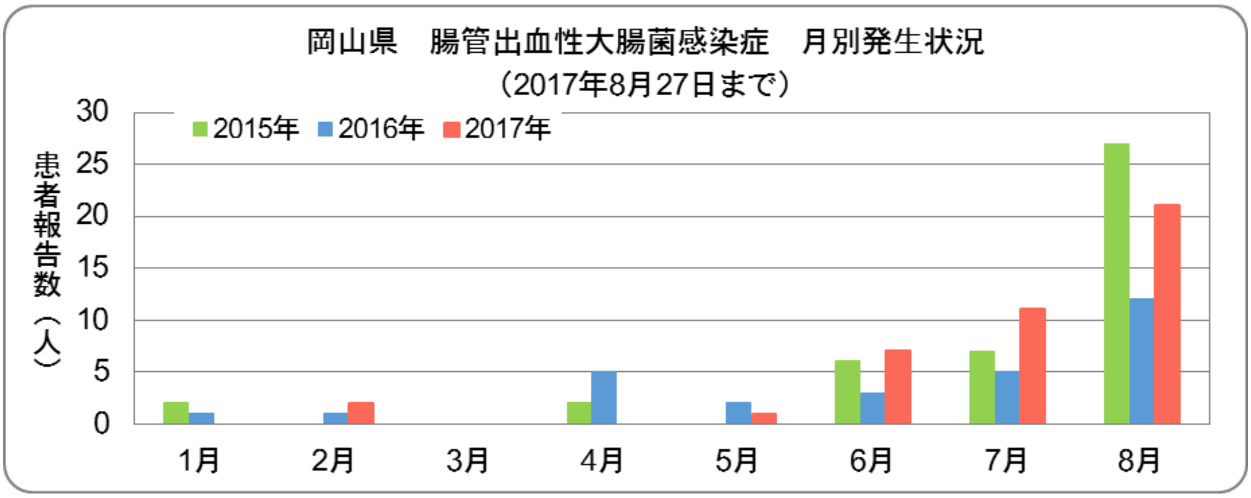
今週の注目感染症

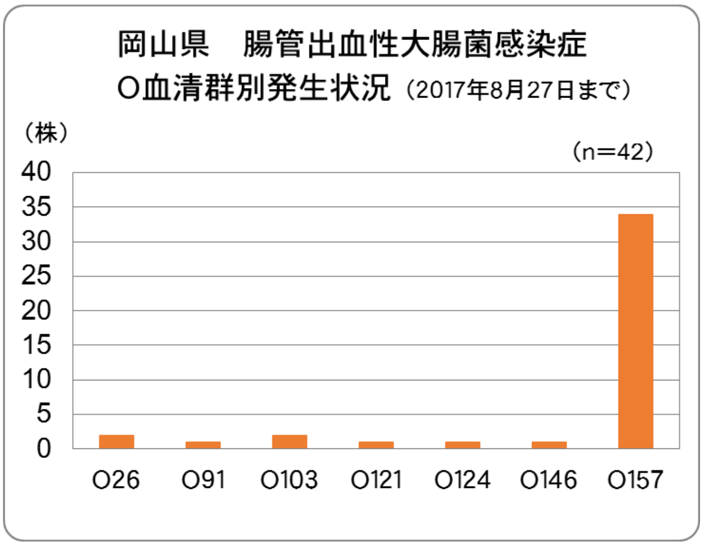
腸管出血性大腸菌感染症

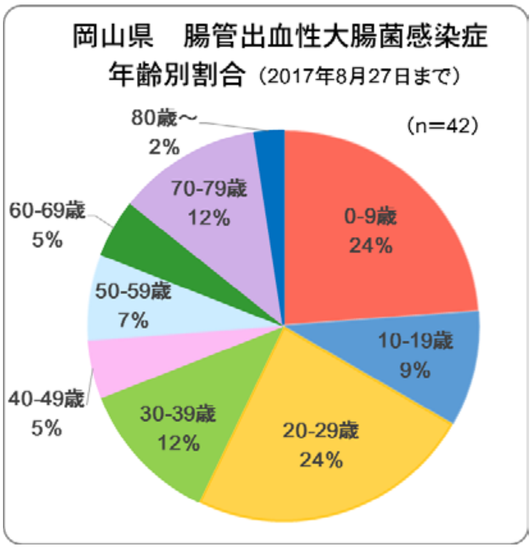
【岡山県の発生状況】

岡山県では、第 32 週に 1 名、第 33 週に 6 名、第 34 週に 12 名の報告があり、2017 年第 34 週まで（～8/27）の累計報告数は 42 名となりました。さらに第 35 週（8/28～8/30）にも、8 名が報告されています。焼肉店における腸管出血性大腸菌 O157 による集団食中毒事例が報告されていることもあり、患者が増加しています。8 月 31 日現在、この集団食中毒による患者は 8 名確認されています。今年 5 月までの累計報告数は、過去 10 年間の同時期と比較して少ない状態でしたが、6 月以降、増加傾向にあります。2017 年に検出された菌の O 血清群は、O157 が 34 株、O26 と O103 が各 2 株、O91、O121、O124 及び O146 が各 1 株で、O157 の検出が多くなっています。年齢別では、乳幼児から高齢者まで、幅広い年齢層から報告されており、特に 0～9 歳と 20 歳代の割合が高くなっています。2017 年第 34 週までに、重症合併症の 1 つである溶血性尿毒症症候群（HUS）発症の報告はありませんが、抵抗力の弱い子供や高齢者などでは、重症化しやすいので注意が必要です。

この感染症は、季節に関係なく年間を通して発生しますが、例年、夏から秋にかけて患者の発生が最も多くなります。この季節、細菌が増殖しやすい高温多湿な環境になっていますので、手洗いなどを徹底するとともに、食品は冷蔵庫で保存し、調理後はできるだけ速やかに食べる、食肉は中心部まで十分に火を通すなどの食中毒対策を励行し、感染予防に努めましょう。

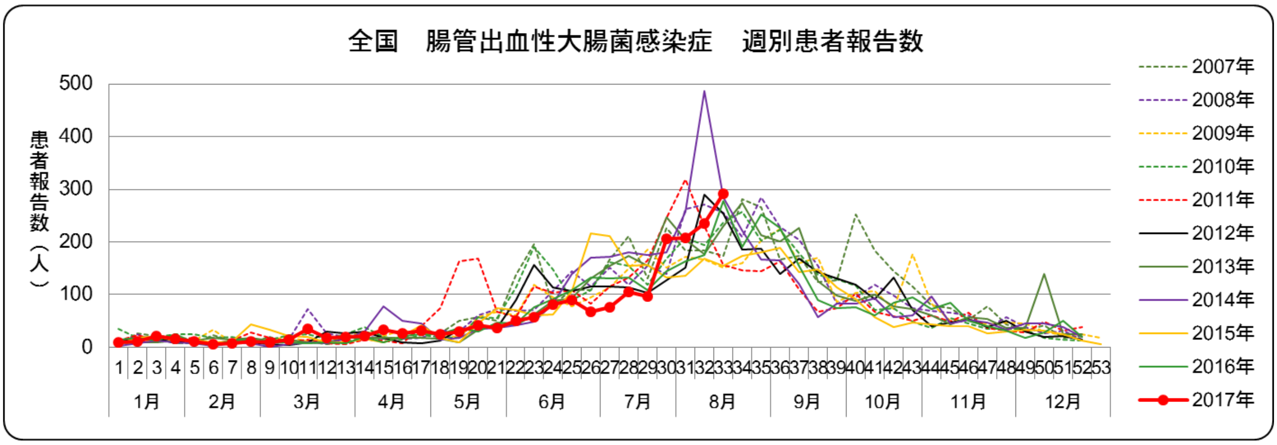






【全国の発生状況】

2017 年第 33 週まで（～8/27）の全国の累計報告数は、1,995 名でした。週別患者報告数をみると、第 30 週（7/24～7/30）に急増しており、保育施設、介護老人保健施設及び医療施設における集団発生の影響と思われます。溶血性尿毒症症候群（HUS）の発症は、第 32 週まで（～8/20）に 43 名（累計報告数 1,147 名中）の報告があり、死亡例も 4 名報告されています。



IDWR 速報データ 2017 年第 33 週（国立感染症研究所）

【主な感染経路】

O157 をはじめとする腸管出血性大腸菌で汚染された食物などを、摂取することによって感染します。また、感染者の便には菌が排出されるため、人から人への二次感染も起こります。

【症　状】

多くの場合、3～5 日の潜伏期をおいて、軽度の発熱とともに、激しい腹痛、水様性下痢、血便などの症状がでます。まれに下痢などの症状がでて数日から 2 週間以内に、溶血性尿毒症症候群（HUS）または脳症などの重症合併症を発症し、死に至ることもあります。

【予　防】

汚染食品からの感染が主体であることから、食品を十分加熱する、調理後の食品は速やかに食べきるなどの注意が必要です。特に、生肉または加熱不十分な食肉を食べないようにすることが重要です。人から人への二次感染については、手洗いの徹底等により予防することができます。特に、保育施設や老人福祉施設における集団発生が多いため、オムツや便の処理、手洗いなどに注意しましょう。

腸管出血性大腸菌感染症とは（国立感染症研究所）

腸管出血性大腸菌 Q&A（厚生労働省）

◆◆◆ 食中毒予防の 3 原則◆◆◆

- **「清潔」（菌をつけない）**
  - ・調理前、食事前、用便後には、手をよく洗いましょう。
  - ・まな板、ふきん等の調理器具は、十分に洗浄消毒を行いましょう。
- **「迅速・冷却」（菌を増やさない）**
  - ・生鮮食品、調理したものは、できるだけ早く食べましょう。
  - ・生鮮食品や調理後の食品は、10℃以下で保存しましょう。
    （生食用鮮魚介類は、4℃以下で保存するよう努めましょう。）
- **「加熱」（菌をやっつける）**
  - ・加熱して食べる食品は、中心部まで十分に火を通しましょう。
  - ・特に、食肉等は中心部まで十分に火を通しましょう。
    （食肉の生食は避けましょう。）

食中毒予防の 3 原則（岡山県生活衛生課）

家庭でできる食中毒予防の 6 つのポイント（厚生労働省）

保健所別報告患者数 2017年 34週（定点把握） （ 2017/08/21～2017/08/27 ）

2017年8月31日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.02	−	−	2	0.13	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
RSウイルス感染症	32	0.59	12	0.86	3	0.27	−	−	2	0.29	7	1.75	−	−	8	1.33
咽頭結膜熱	9	0.17	5	0.36	1	0.09	1	0.10	1	0.14	−	−	−	−	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	49	0.91	10	0.71	25	2.27	3	0.30	6	0.86	2	0.50	−	−	3	0.50
感染性胃腸炎	286	5.30	93	6.64	46	4.18	67	6.70	11	1.57	21	5.25	16	8.00	32	5.33
水痘	10	0.19	3	0.21	2	0.18	3	0.30	1	0.14	−	−	−	−	1	0.17
手足口病	129	2.39	51	3.64	41	3.73	6	0.60	22	3.14	3	0.75	−	−	6	1.00
伝染性紅斑	2	0.04	2	0.14	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
突発性発疹	14	0.26	6	0.43	3	0.27	3	0.30	1	0.14	1	0.25	−	−	−	−
百日咳	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ヘルパンギーナ	34	0.63	11	0.79	9	0.82	5	0.50	6	0.86	−	−	−	−	3	0.50
流行性耳下腺炎	11	0.20	2	0.14	7	0.64	−	−	1	0.14	1	0.25	−	−	−	−
急性出血性結膜炎	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−					−	−
流行性角結膜炎	8	0.67	−	−	2	0.50	2	2.00	4	4.00					−	−
細菌性髄膜炎	−	−	−	−	−	−					−	−	−	−	−	−
無菌性髄膜炎	−	−	−	−	−	−					−	−	−	−	−	−
マイコプラズマ肺炎	−	−	−	−	−	−					−	−	−	−	−	−
クラミジア肺炎	−	−	−	−	−	−					−	−	−	−	−	−
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	−	−	−	−	−	−					−	−	−	−	−	−

（ − ： 0 or 0.00 ） （ 空白 ： 定点なし ）

保健所別報告患者数 2017年 34週(発生レベル設定疾患)　(2017/08/21～2017/08/27)　2017年8月31日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	2	0.02	−	−	2	0.13	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
咽頭結膜熱	9	0.17	5	0.36	1	0.09	1	0.10	1	0.14	−	−	−	−	1	0.17
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	49	0.91	10	0.71	25	2.27	3	0.30	6	0.86	2	0.50	−	−	3	0.50
感染性胃腸炎	286	5.30	93	6.64	46	4.18	67	6.70	11	1.57	21	5.25	16	8.00	32	5.33
水痘	10	0.19	3	0.21	2	0.18	3	0.30	1	0.14	−	−	−	−	1	0.17
手足口病	129	2.39	51	3.64	41	3.73	6	0.60	22	3.14	3	0.75	−	−	6	1.00
伝染性紅斑	2	0.04	2	0.14	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
百日咳	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−
ヘルパンギーナ	34	0.63	11	0.79	9	0.82	5	0.50	6	0.86	−	−	−	−	3	0.50
流行性耳下腺炎	11	0.20	2	0.14	7	0.64	−	−	1	0.14	1	0.25	−	−	−	−
急性出血性結膜炎	−	−	−	−	−	−	−	−	−	−					−	−
流行性角結膜炎	8	0.67	−	−	2	0.50	2	2.00	4	4.00					−	−

濃黄セルに赤数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル３
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル２　を示しています。

（ − ： 0 or 0.00 ）　（ 空白 ： 定点なし ）

感染症発生動向調査 週情報　　報告患者数 年齢別　　（ 2017年 第34週　2017/08/21～2017/08/27 ）

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	2	–	–	1	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	32	2	8	18	3	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–
咽頭結膜熱	9	–	3	1	–	–	1	–	2	1	–	1	–	–	–
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	49	–	–	2	5	8	5	3	5	6	4	–	8	1	2
感染性胃腸炎	286	8	25	58	40	23	19	12	15	4	7	15	18	6	36
水痘	10	–	–	–	1	1	2	3	1	1	1	–	–	–	–
手足口病	129	2	13	41	20	16	12	8	3	4	1	3	4	1	1
伝染性紅斑	2	–	–	–	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–
突発性発疹	14	–	5	8	1	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
百日咳	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
ヘルパンギーナ	34	–	5	10	9	4	1	2	2	1	–	–	–	–	–
流行性耳下腺炎	11	–	–	1	2	1	3	1	–	2	–	–	1	–	–

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
流行性角結膜炎	8	–	–	1	1	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	1	1	1	1	1

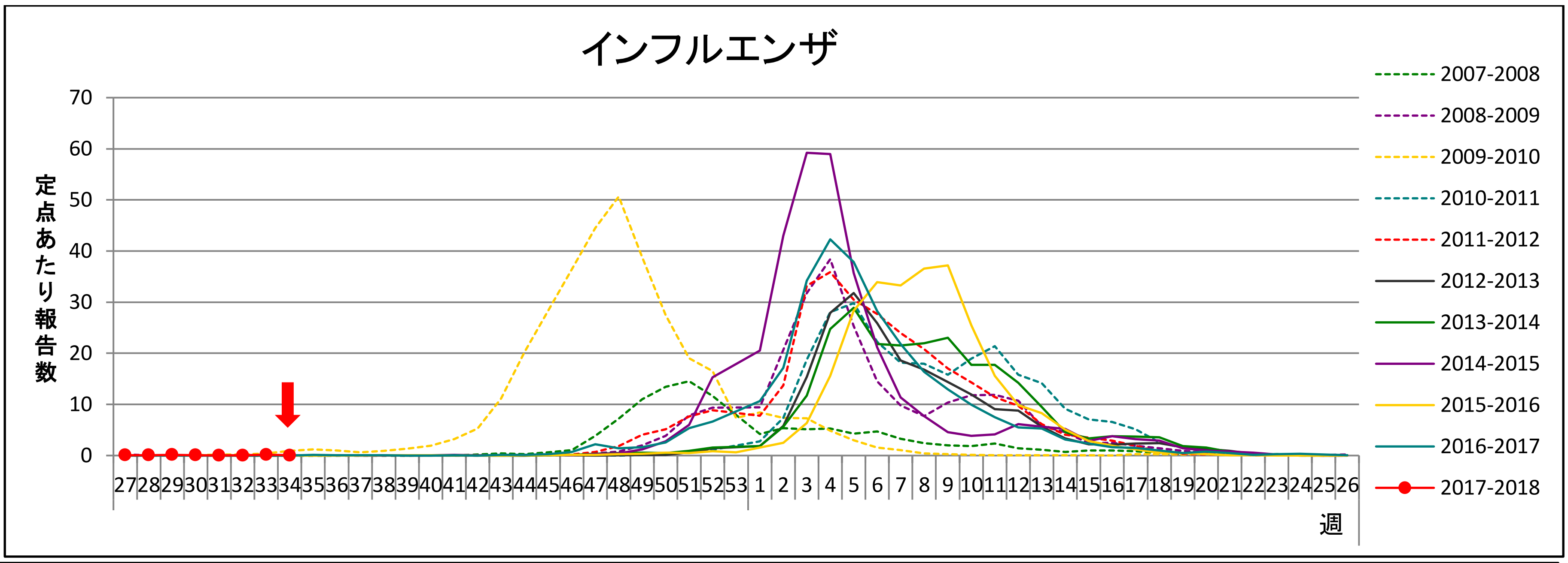
疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–

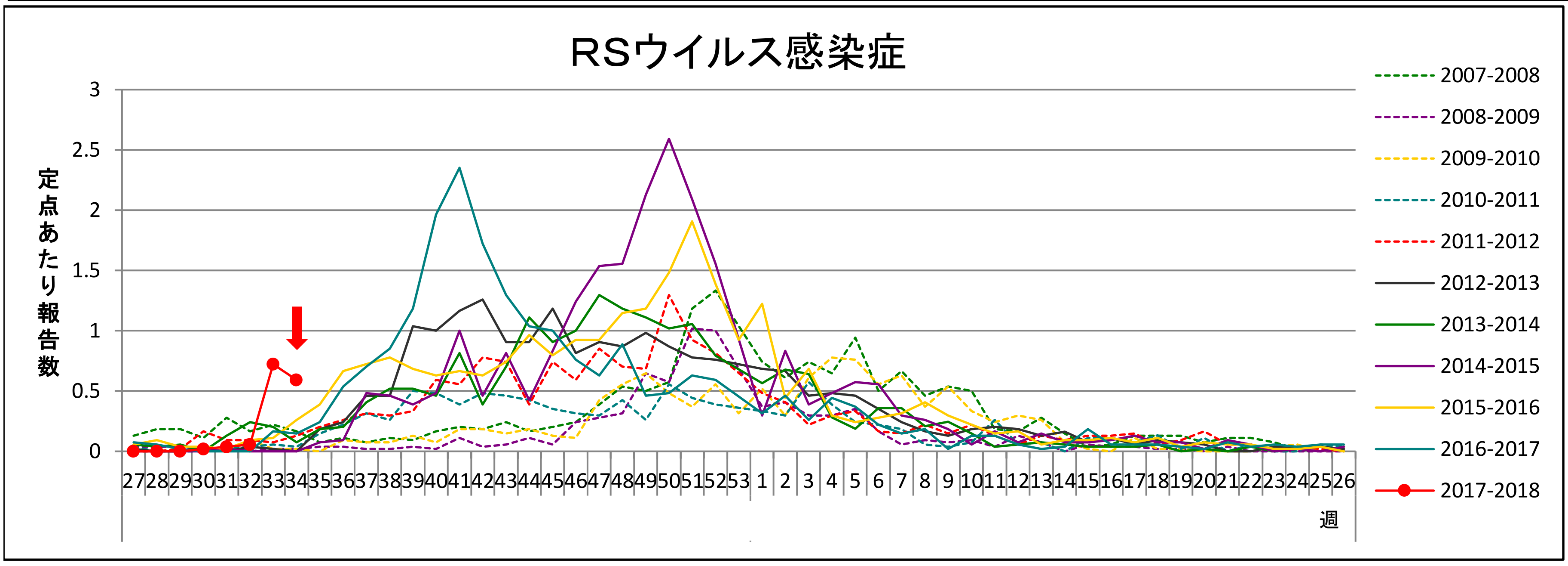
（ –： 0 ）

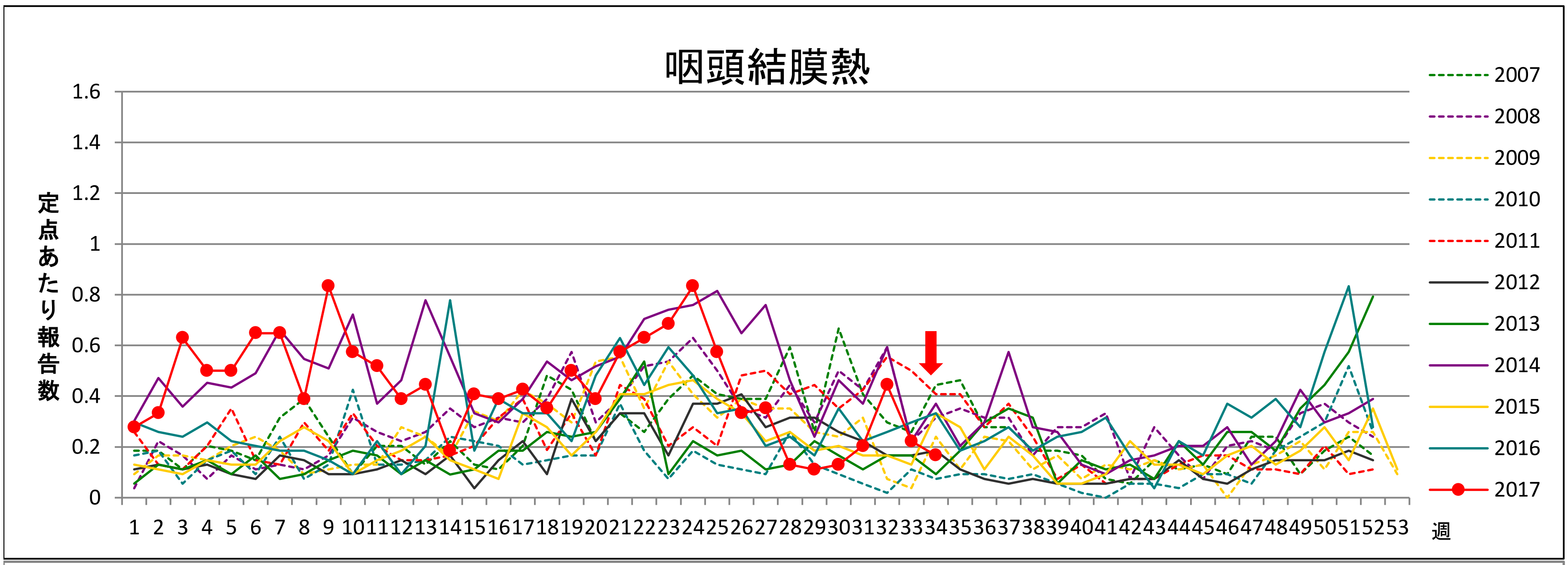
全数把握 感染症患者発生状況

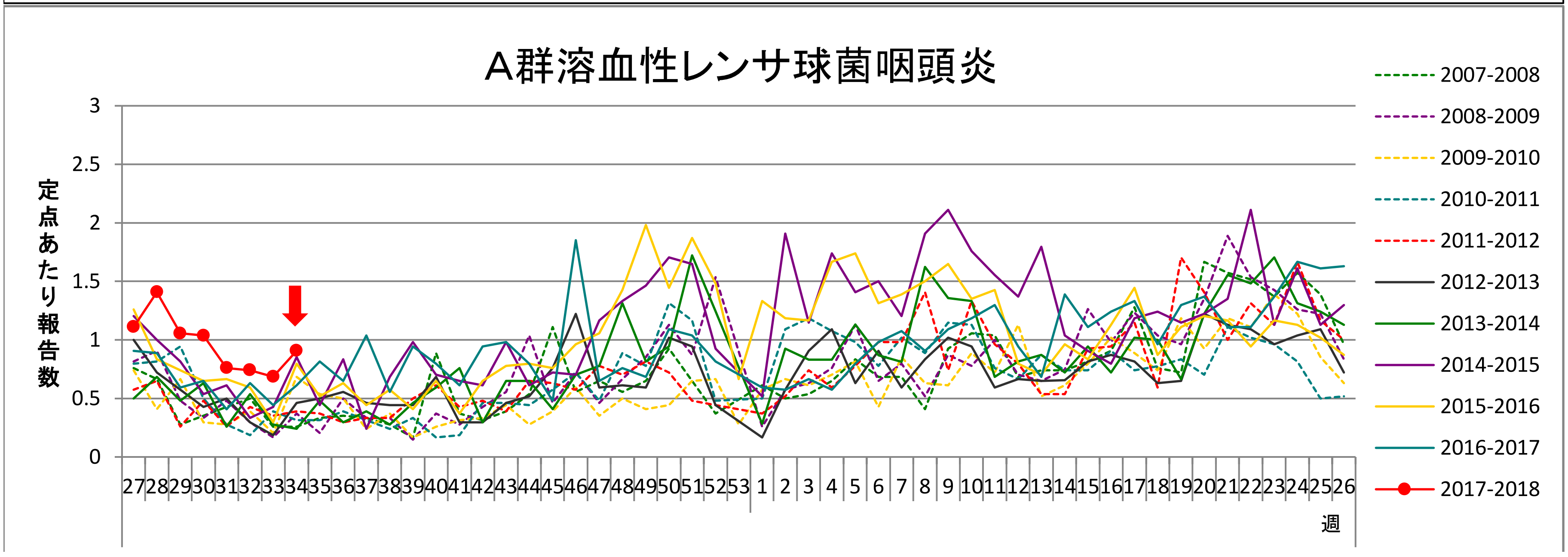
2017 年　34 週

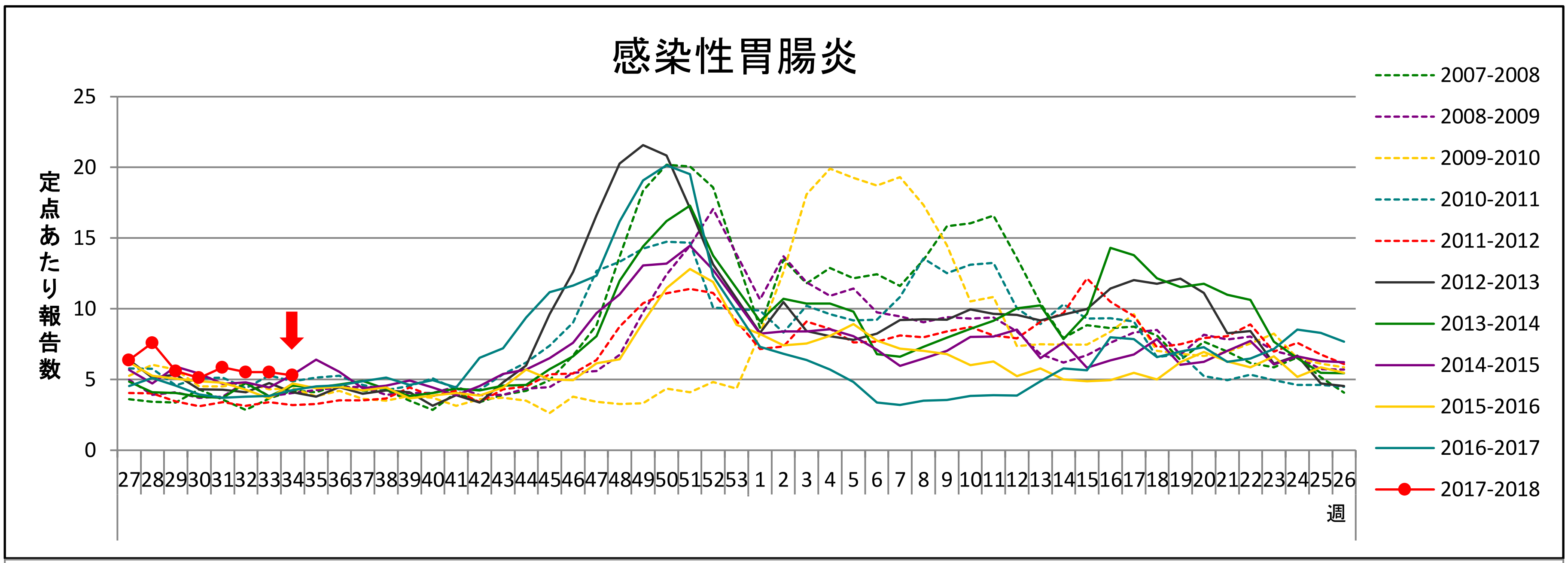
分類	疾病名	2017 今週	2017 累計	2016 昨年	疾病名	2017 今週	2017 累計	2016 昨年	疾病名	2017 今週	2017 累計	2016 昨年
一類	エボラ出血熱	–	–	–	クリミア･コンゴ出血熱	–	–	–	痘そう	–	–	–
	南米出血熱	–	–	–	ペスト	–	–	–	マールブルグ病	–	–	–
	ラッサ熱	–	–	–		–	–	–		–	–	–
二類	急性灰白髄炎	–	–	–	結核	1	231	311	ジフテリア	–	–	–
	重症急性呼吸器症候群	–	–	–	中東呼吸器症候群	–	–	–	鳥インフルエンザ（H5N1）	–	–	–
	鳥インフルエンザ（H7N9）	–	–	–		–	–	–		–	–	–
三類	コレラ	1	1	–	細菌性赤痢	–	1	–	腸管出血性大腸菌感染症	12	42	65
	腸チフス	–	1	–	パラチフス	–	–	–		–	–	–
四類	E型肝炎	–	1	2	ウエストナイル熱	–	–	–	A型肝炎	–	1	3
	エキノコックス症	–	–	–	黄熱	–	–	–	オウム病	–	–	–
	オムスク出血熱	–	–	–	回帰熱	–	–	–	キャサヌル森林病	–	–	–
	Q熱	–	–	–	狂犬病	–	–	–	コクシジオイデス症	–	–	–
	サル痘	–	–	–	ジカウイルス感染症	–	–	–	重症熱性血小板減少症候群	–	–	1
	腎症候性出血熱	–	–	–	西部ウマ脳炎	–	–	–	ダニ媒介脳炎	–	–	–
	炭疽	–	–	–	チクングニア熱	–	–	–	つつが虫病	–	–	2
	デング熱	1	1	1	東部ウマ脳炎	–	–	–	鳥インフルエンザ	–	–	–
	ニパウイルス感染症	–	–	–	日本脳炎	–	–	1	日本紅斑熱	–	3	5
	ハンタウイルス肺症候群	–	–	–	Bウイルス病	–	–	–	鼻疽	–	–	–
	ブルセラ症	–	–	–	ベネズエラウマ脳炎	–	–	–	ヘンドラウイルス感染症	–	–	–
	発しんチフス	–	–	–	ボツリヌス症	–	–	–	マラリア	–	–	–
	野兎病	–	–	–	ライム病	–	–	–	リッサウイルス感染症	–	–	–
	リフトバレー熱	–	–	–	類鼻疽	–	–	–	レジオネラ症	–	16	26
	レプトスピラ症	–	–	–	ロッキー山紅斑熱	–	–	–		–	–	–
五類	アメーバ赤痢	1	18	18	ウイルス性肝炎	–	5	4	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	–	9	28
	急性脳炎	–	3	11	クリプトスポリジウム症	–	–	–	クロイツフェルト･ヤコブ病	–	2	3
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	–	6	8	後天性免疫不全症候群	–	12	12	ジアルジア症	–	–	1
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	–	1	7	侵襲性髄膜炎菌感染症	–	–	–	侵襲性肺炎球菌感染症	–	28	32
	水痘（入院例に限る。）	–	2	3	先天性風しん症候群	–	–	–	梅毒	–	101	40
	播種性クリプトコックス症	–	–	2	破傷風	–	–	4	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染	–	–	–
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	–	4	1	風しん	–	–	–	麻しん	–	–	–
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	–	–	–		–	–	–		–	–	–


インフルエンザ
定点あたり報告数
週
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018

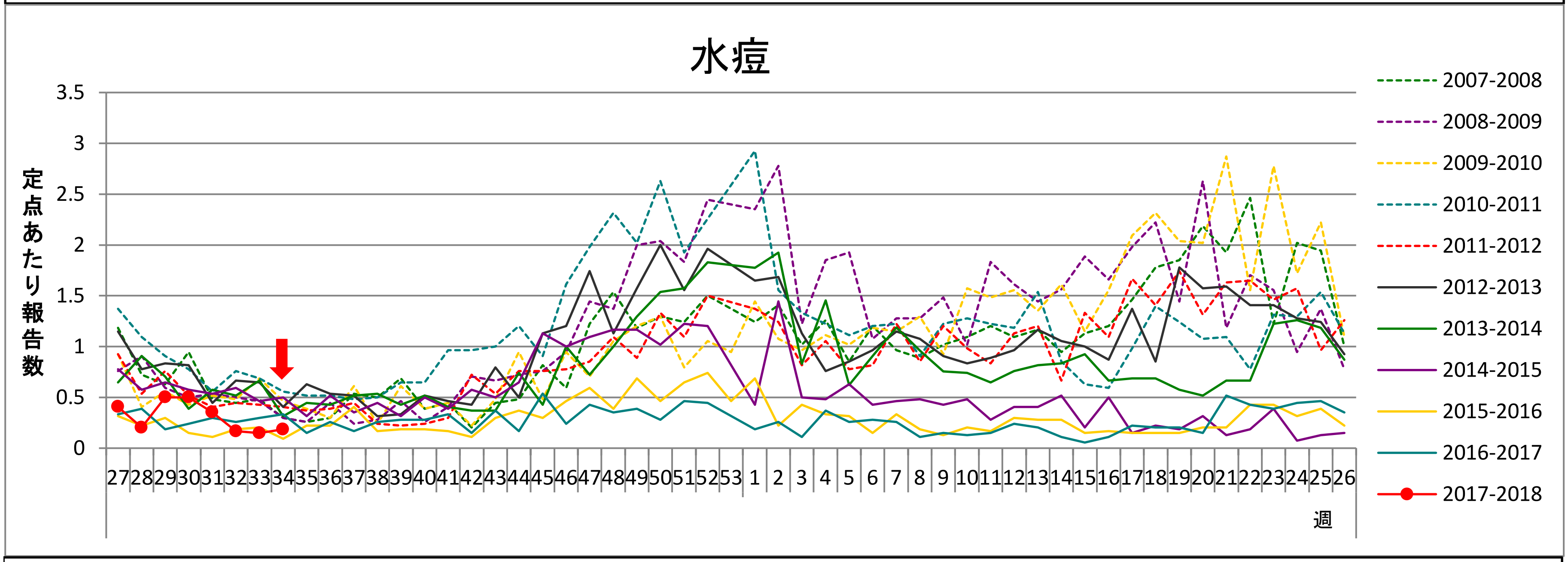

RSウイルス感染症
定点あたり報告数
週
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018


咽頭結膜熱
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

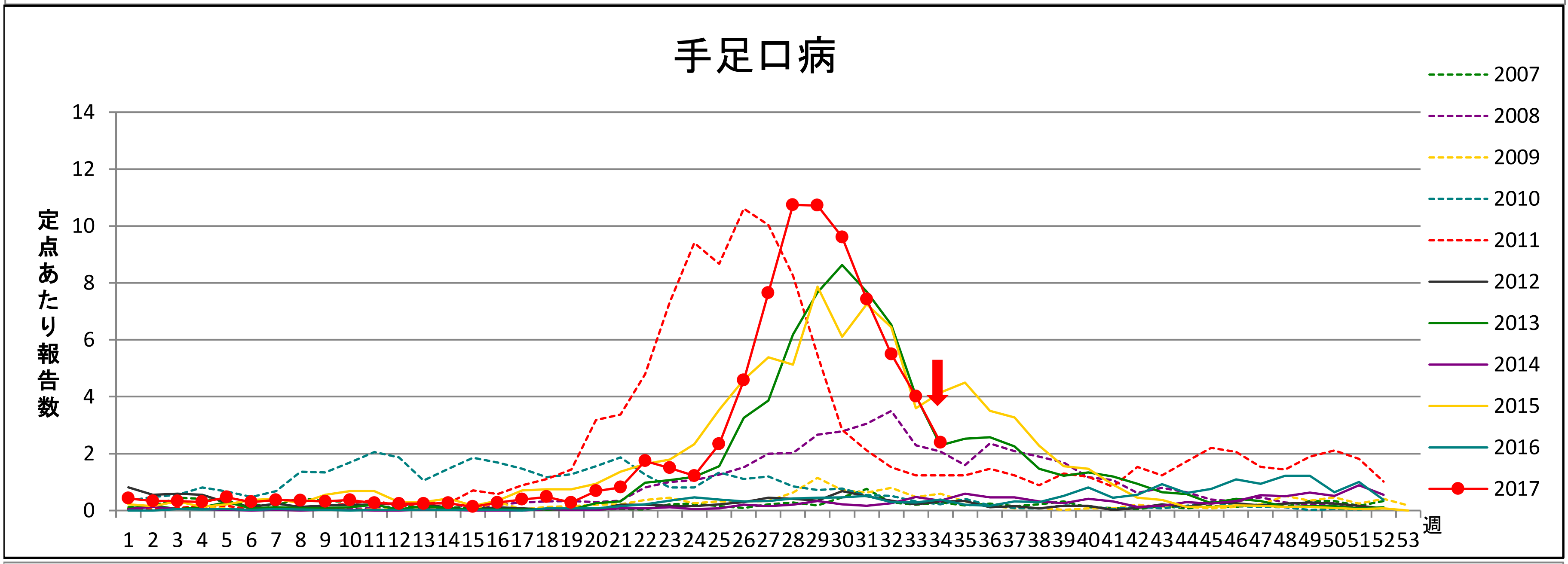

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
定点あたり報告数
週
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018



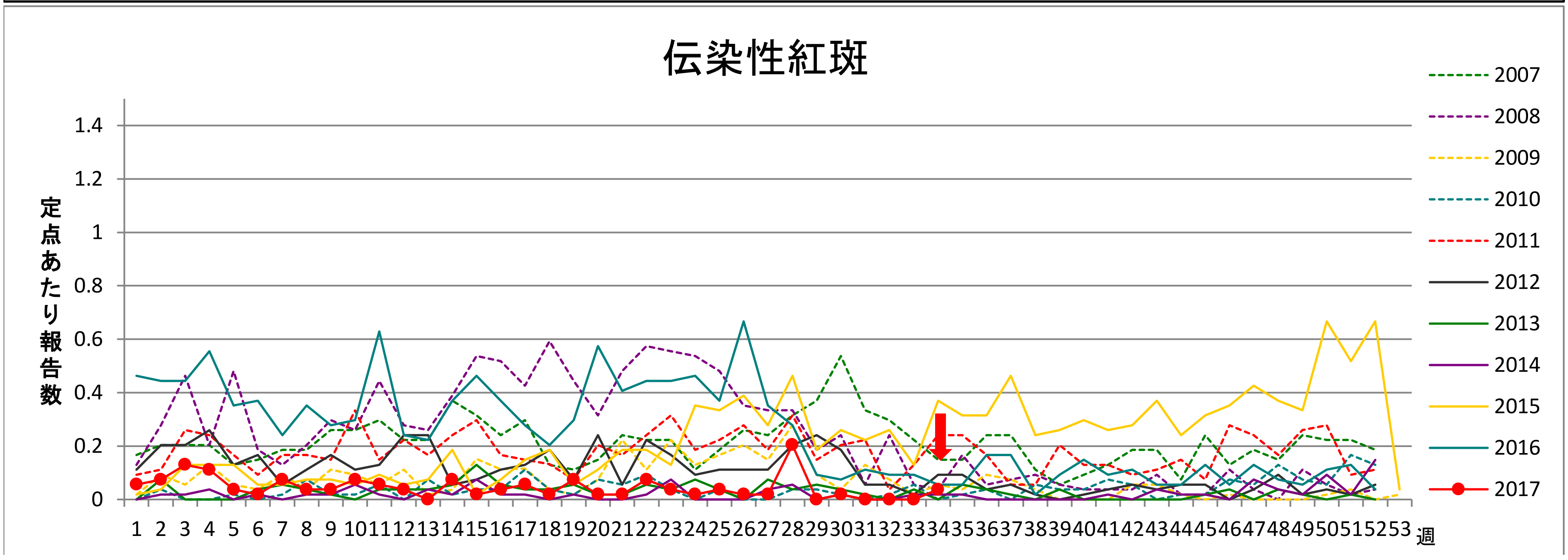
感染性胃腸炎
定点あたり報告数
0
5
10
15
20
25
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26
週
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018



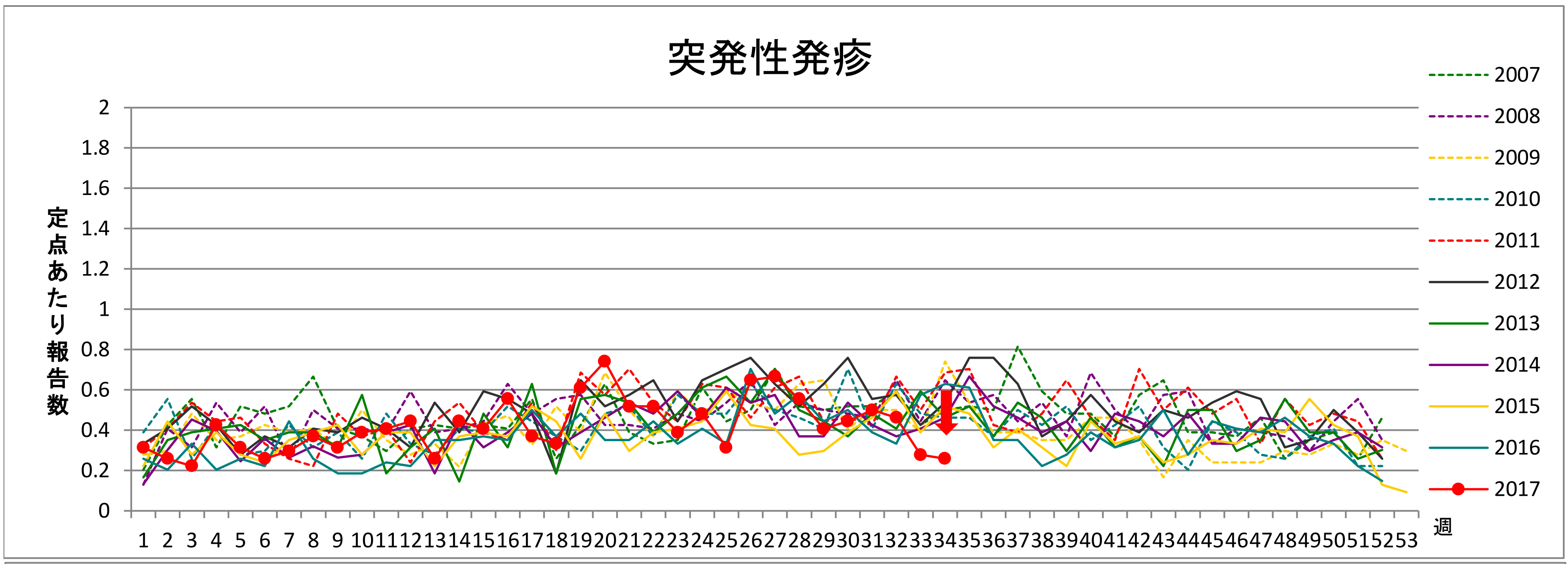
水痘
定点あたり報告数
0
0.5
1
1.5
2
2.5
3
3.5
27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26
週
2007-2008
2008-2009
2009-2010
2010-2011
2011-2012
2012-2013
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018

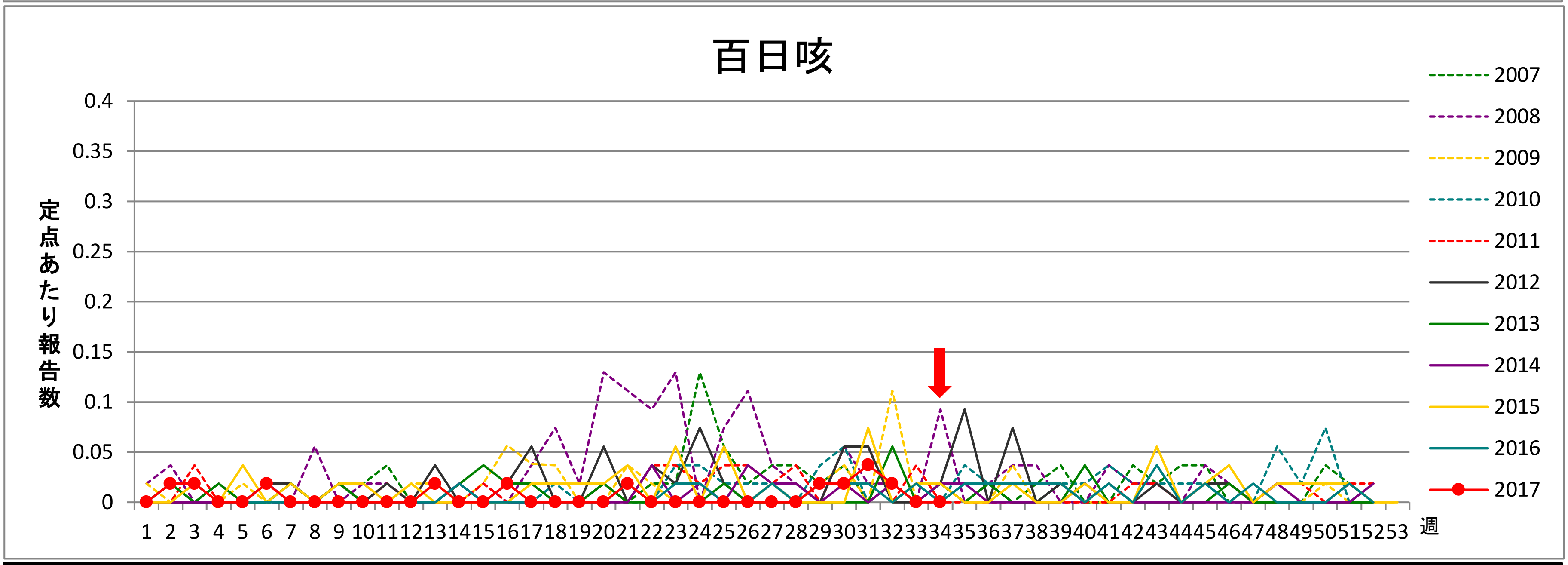


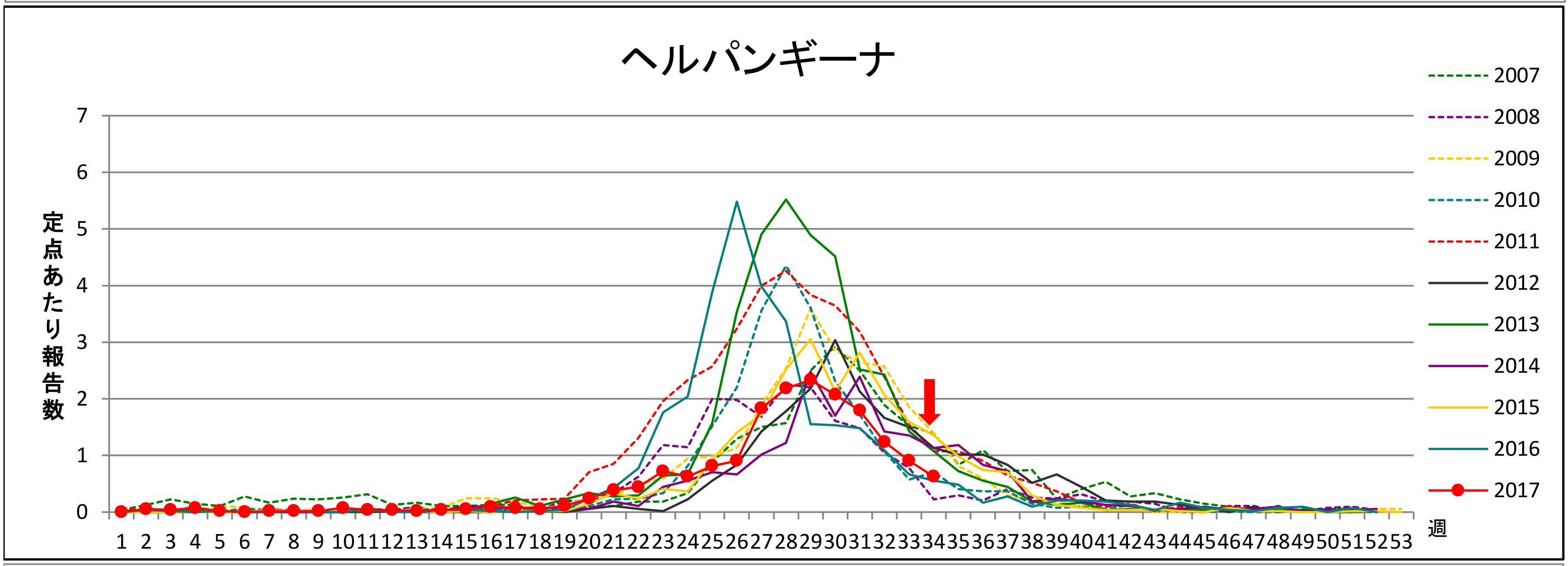
手足口病
定点あたり報告数
0
2
4
6
8
10
12
14
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

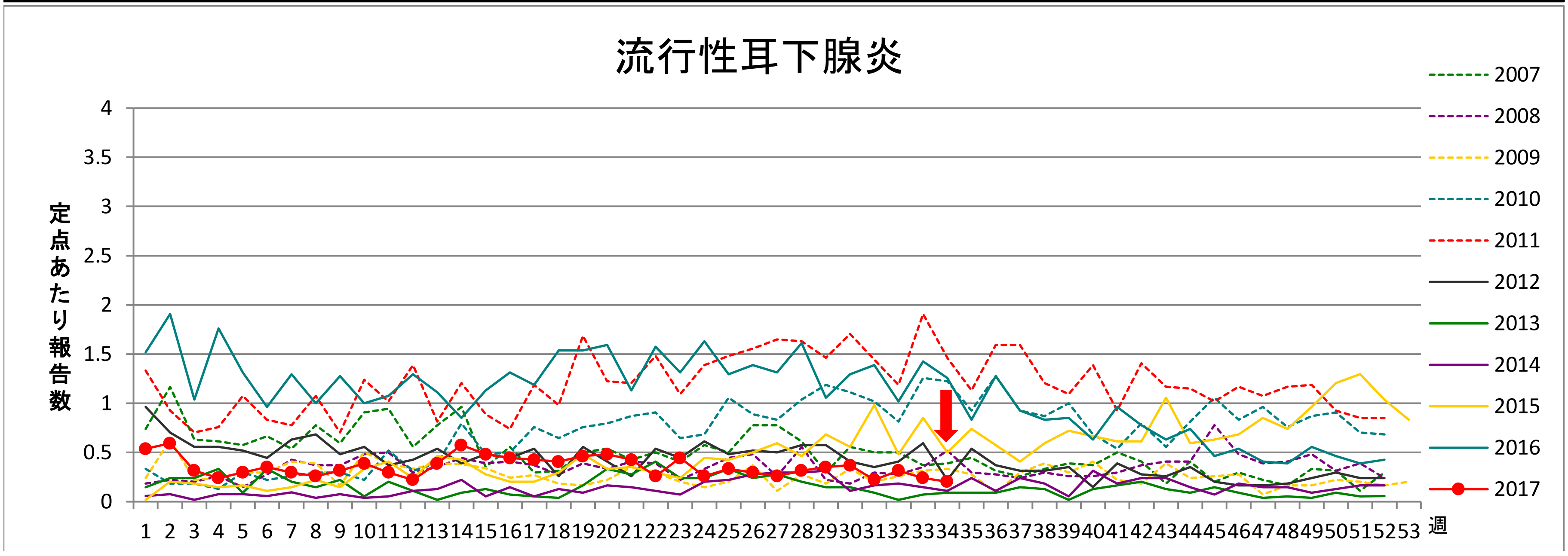


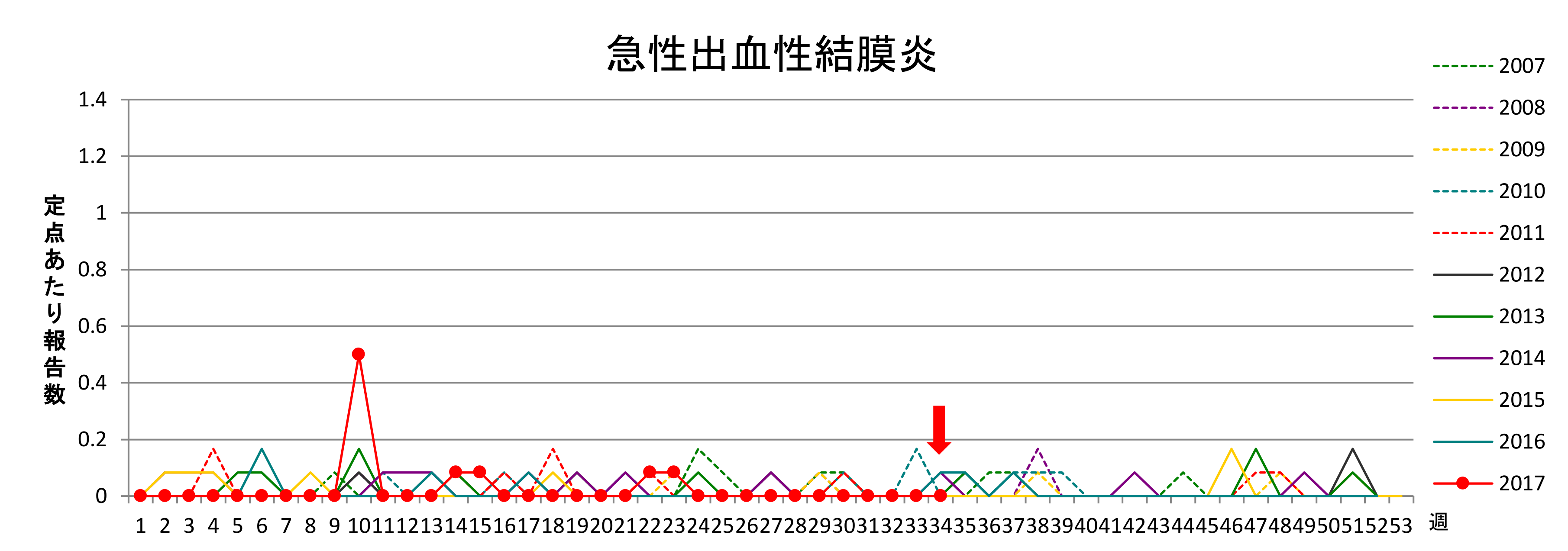
伝染性紅斑
定点あたり報告数
0
0.2
0.4
0.6
0.8
1
1.2
1.4
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

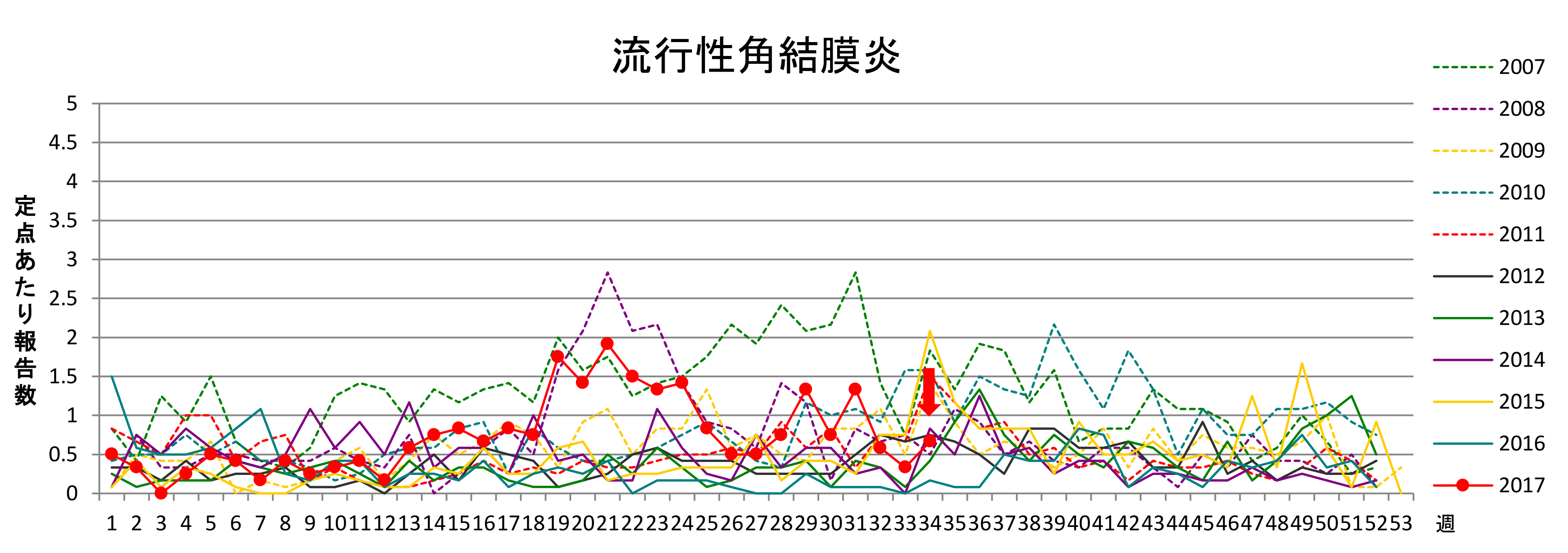

突発性発疹
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

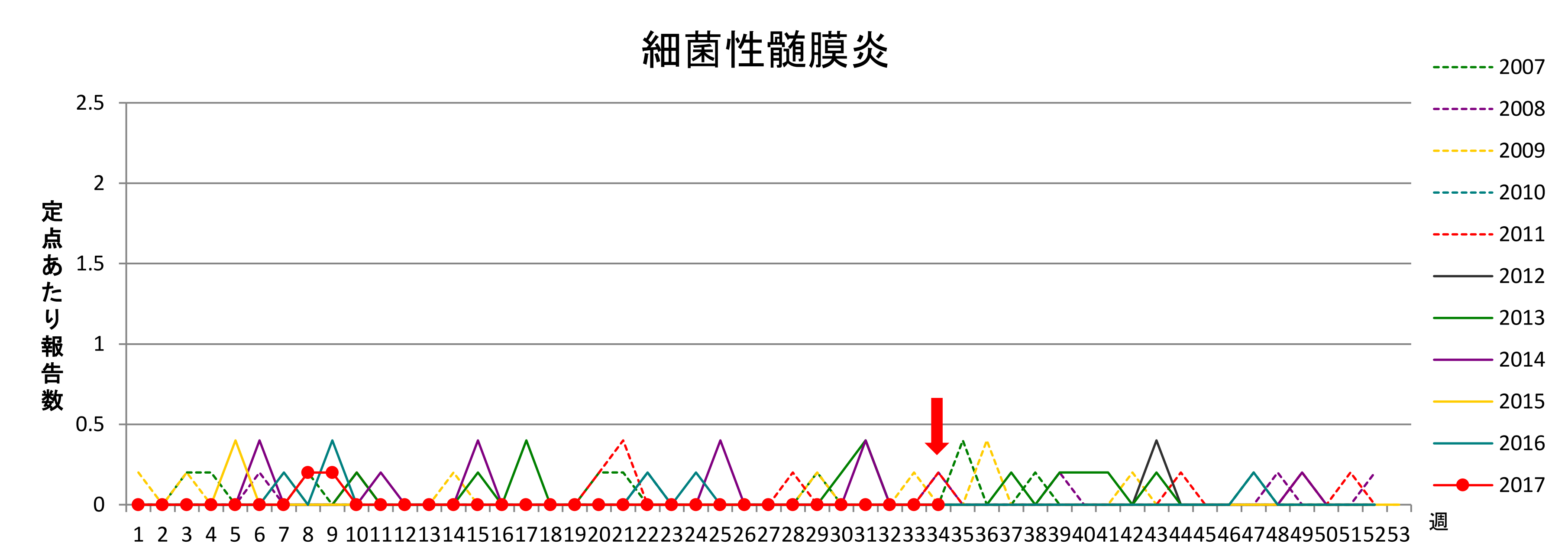

百日咳
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

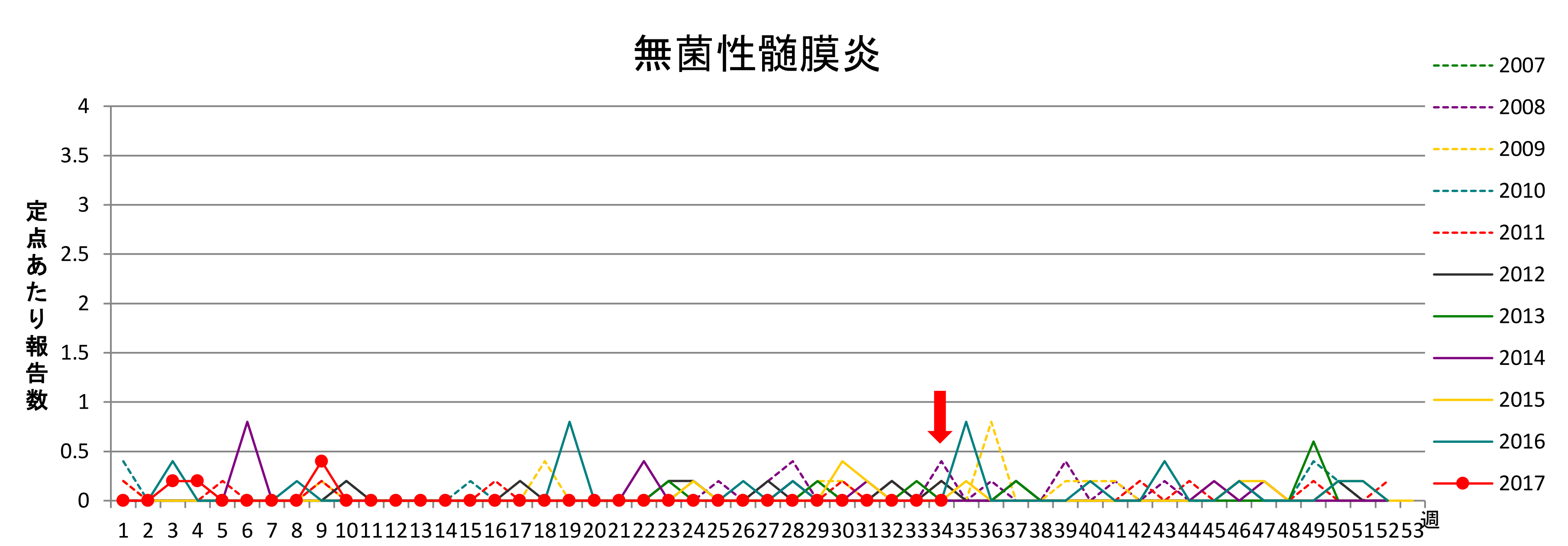

ヘルパンギーナ
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

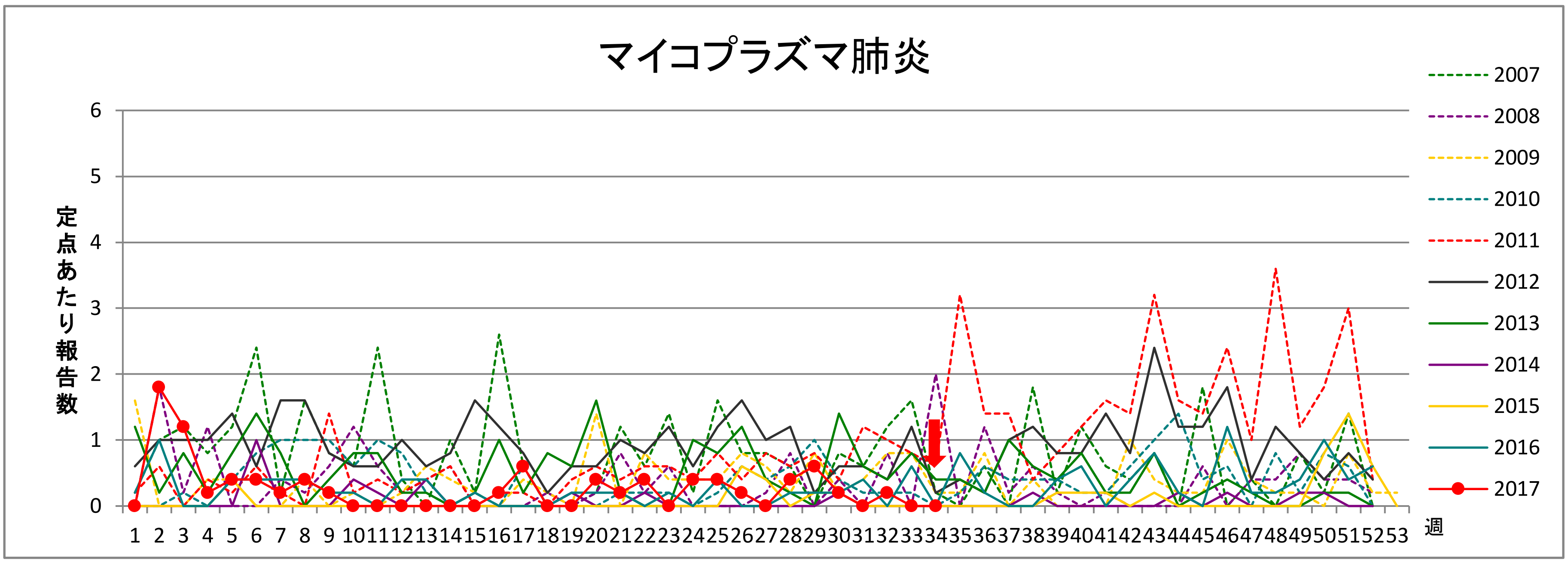

流行性耳下腺炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

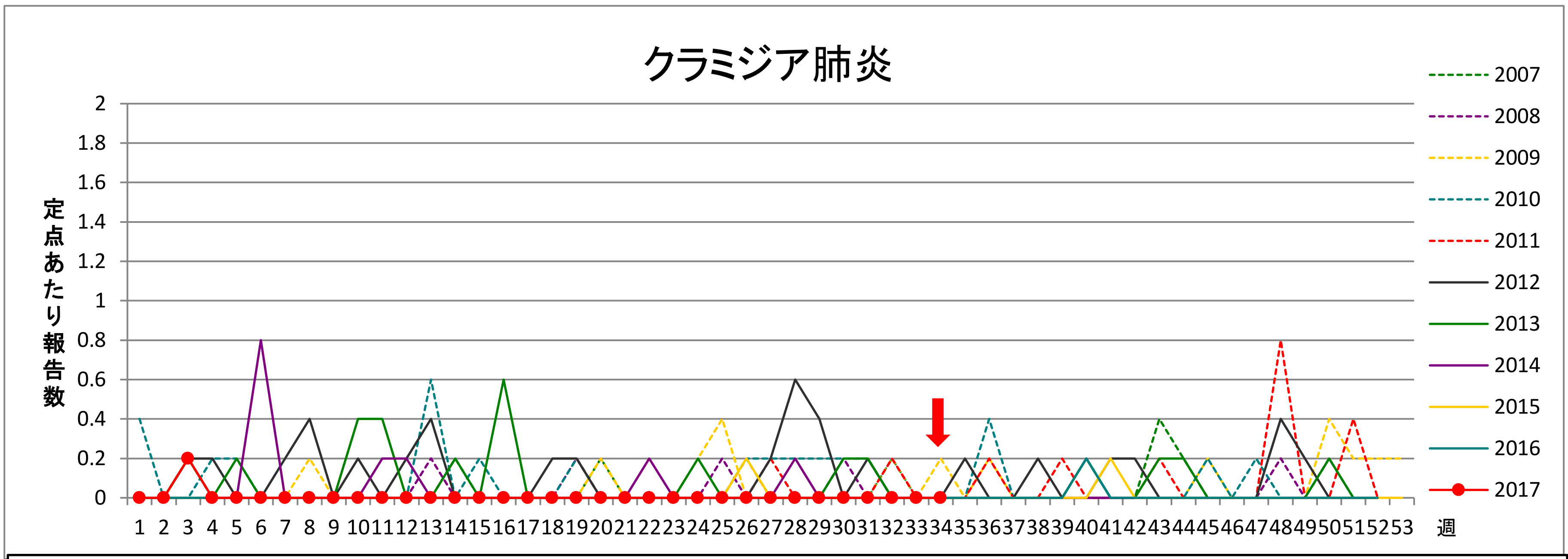

急性出血性結膜炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017

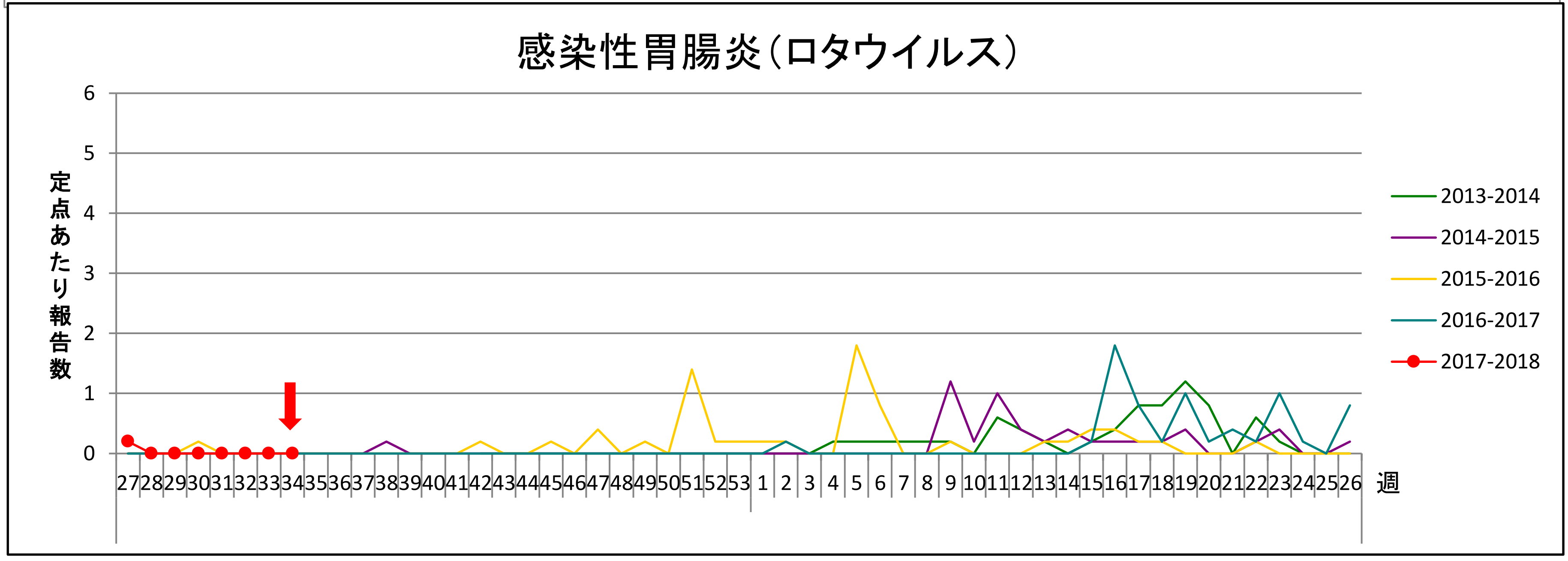

流行性角結膜炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


細菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


無菌性髄膜炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


マイコプラズマ肺炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


クラミジア肺炎
定点あたり報告数
週
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017


感染性胃腸炎（ロタウイルス）
定点あたり報告数
週
2013-2014
2014-2015
2015-2016
2016-2017
2017-2018